

資料 1

亀岡市上下水道ビジョンの中間見直しについて

令和7年度第1回
亀岡市上下水道事業経営審議会

令和7年9月19日

目 次

1 上下水道ビジョンの概要と中間見直し	2
2 事業のあゆみと施設の概要	8
3 事業をめぐる現状分析	13
4 上下水道ビジョンの取組目標の達成状況と評価	19
5 財政計画の収支状況	23

1 上下水道ビジョンの概要と中間見直し

上下水道ビジョンの概要

ビジョン策定の趣旨



ビジョンの位置づけ



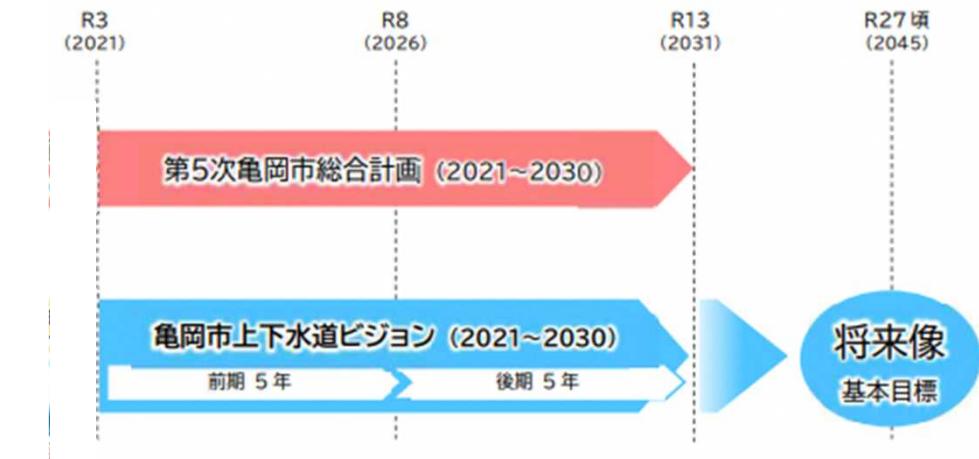
亀岡市上下水道ビジョンは、50年先、100年先を見据え、そのるべき姿、目指す将来像を描くとともに、その将来像を現実のものとするためにいま何が必要なのかをお示しするものです。 (ビジョン P. 2)

第5次亀岡市総合計画を実現するための水道・下水道分野の実施計画であると同時に、亀岡市上下水道事業の基本理念のもとに目指す将来像や目標とその実現のための方策を描いた、これからの時代の上下水道事業運営の指針となる計画です。 (ビジョン P. 3)

ビジョンの組み立て



ビジョンの計画期間



基本目標の達成に向けた今後10年間の取組事項や収支の見通しを示すことで、本市の上下水道事業が進むべき方向を明らかにします。 (ビジョン P. 4)

令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間を計画期間とします。 (ビジョン P. 5)

上下水道ビジョンの中間見直し

趣 旨

計画期間が 10 年間と長期にわたることから、社会環境の変化や計画の達成状況などを踏まえ、計画期間の中間にあたる令和 7 年度に見直しを実施するものです。

方向性

主に、現ビジョンの次の 3 つの章の見直しを行うこととします。

- 事業をめぐる情勢（現ビジョン第 3 章）
人口と水需要の動向、財政状況の推移、経営指標などを直近の数値に更新します。
- 実現のための取り組み（現ビジョン第 5 章）
31 個の取組目標を定め、事業の進捗管理を行っています。前期の達成状況を評価し、その結果に基づいて目標値の一部見直しを検討します。
- 収支の見通し（現ビジョン第 6 章）
投資計画の変更、物価上昇・人件費高騰などを踏まえ、収支見通しの見直しを行います。

内 容

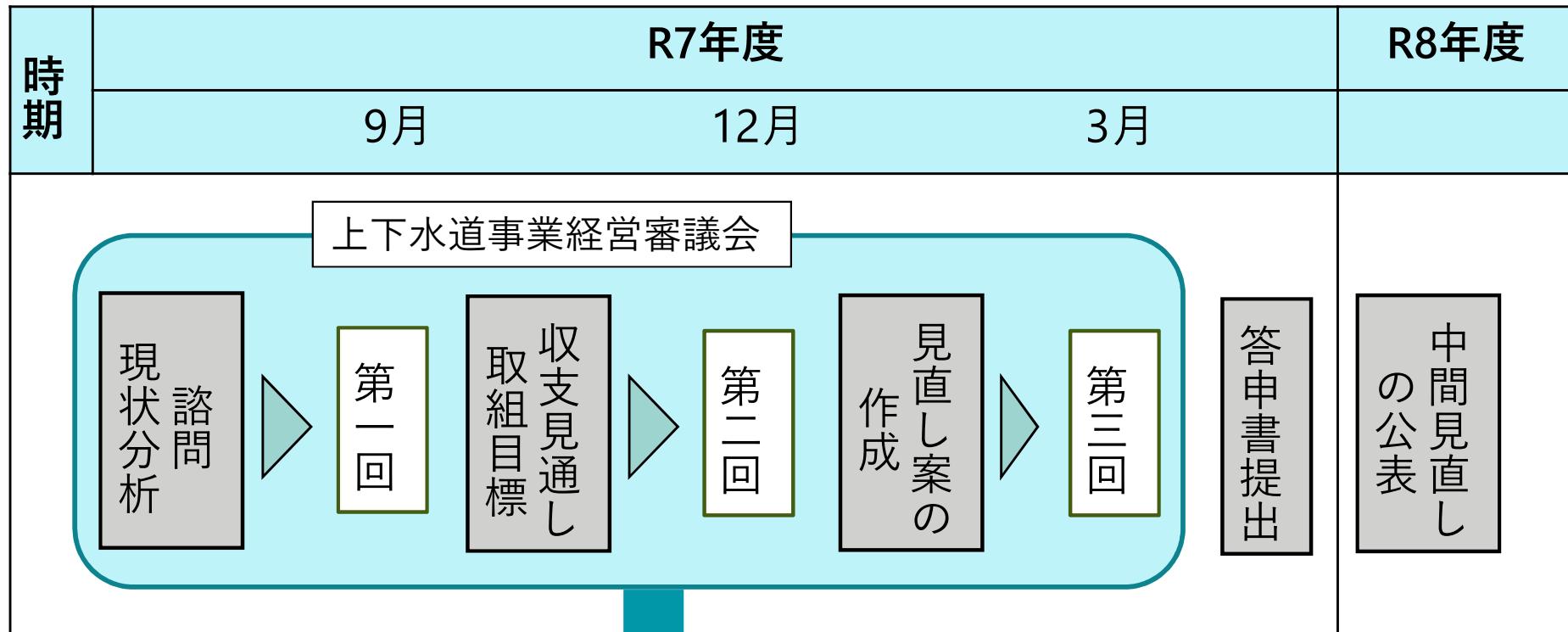
中間見直しでは、基本理念、目指す将来像、基本目標はそのままに、取組事項・収支の見通しについて、現状の把握・分析による課題や取組目標などについて整理します。



(第1回審議会) ビジョンの達成に向けたフォローアップ（進捗管理）により、取組事項に設定した取組目標の進捗状況を確認し、達成状況について評価します。

(第2回審議会) 評価結果をもとに既存の課題の状況や、新たな課題の有無について整理し、取組内容及び取組目標、収支見通しの見直しを検討します。

審議会のスケジュール



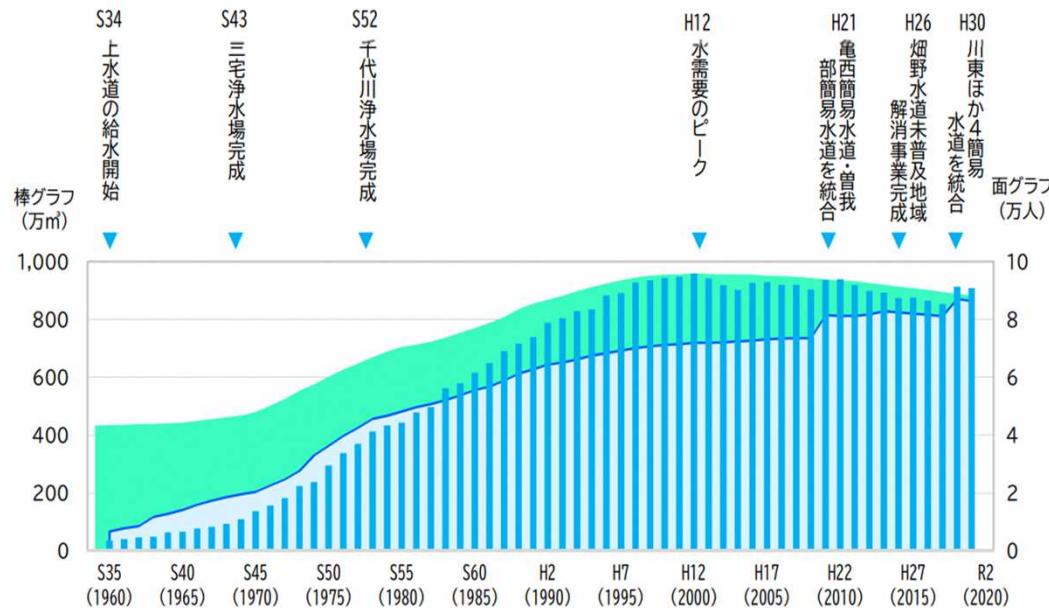
＜審議会の概要＞

- 第1回：ビジョンの現状分析、取組目標の進捗状況、見直しの概要（令和7年9月開催）
- 第2回：ビジョンの取組目標、収支見通しの見直し、見直しの素案（令和7年12月開催予定）
- 第3回：ビジョンの中間見直しの結果及び答申書の検討（令和8年3月開催予定）

2 事業のあゆみと施設の概要

水道事業のあゆみと現況

水道事業のあゆみ



水道事業の現況

(令和7年3月末現在)

事 項	内 容
行政区域内人口	85,900人
給水区域内人口	84,584人
給水人口	84,387人
人口普及率	98.2%
給水区域内普及率	99.8%
年間総配水量	10,284,678m ³
年間有収水量	9,488,145m ³
有収率	92.3%
一日平均有収水量	25,995m ³ /日

水道施設の概要

市内 5 力所の浄水場のうち、三宅浄水場と千代川浄水場の 2 力所が主要な施設です

(令和7年3月末現在)

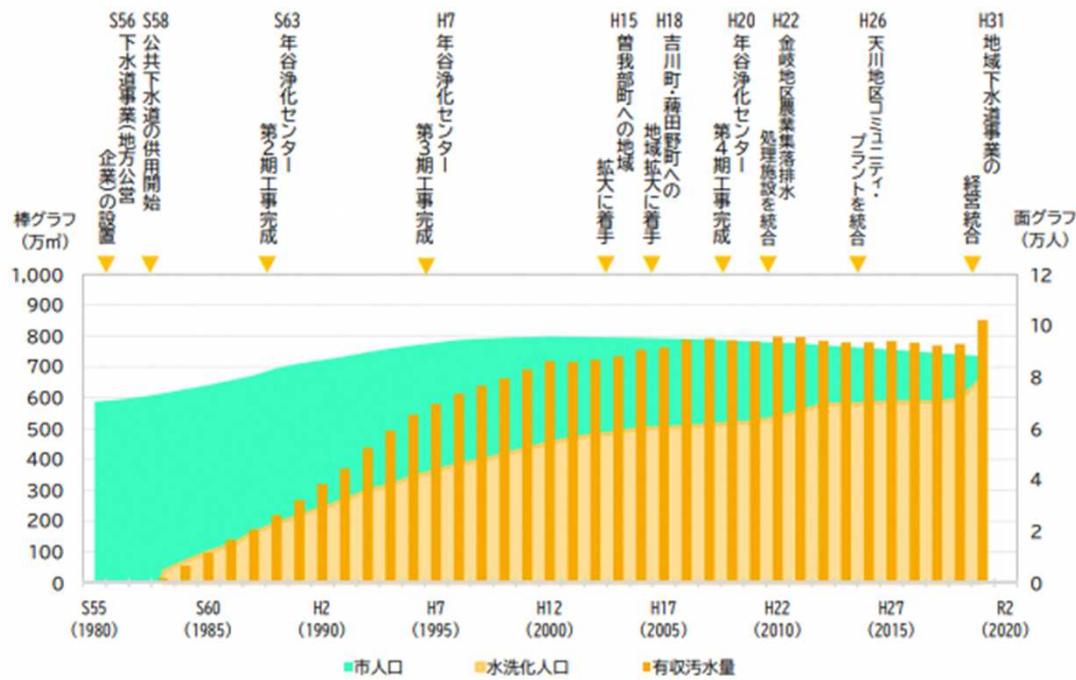
配水系統		三宅浄水場系統	千代川浄水場系統
浄水場	名称	三宅浄水場	千代川浄水場
	給水能力	20,000 m ³ /日	33,600 m ³ /日
	水源	深井戸4基	深井戸9基
	一日最大送水量	11,938 m ³ /日	21,405 m ³ /日
一次配水池 (注)	名称	平和台配水池	湯井配水池
	容量	8,082 m ³	15,860 m ³
その他の配水池	箇所数	6力所	10力所
	容量	7,068 m ³	4,221 m ³
管路	基幹管路	23,548 m	46,574 m
	配水支管	209,051 m	366,889 m
	計	232,599 m	413,463 m



(注) ここでは、浄水場から直接送水される配水池を「一次配水池」と呼んでいます。

下水道事業のあゆみと現況

下水道事業のあゆみ



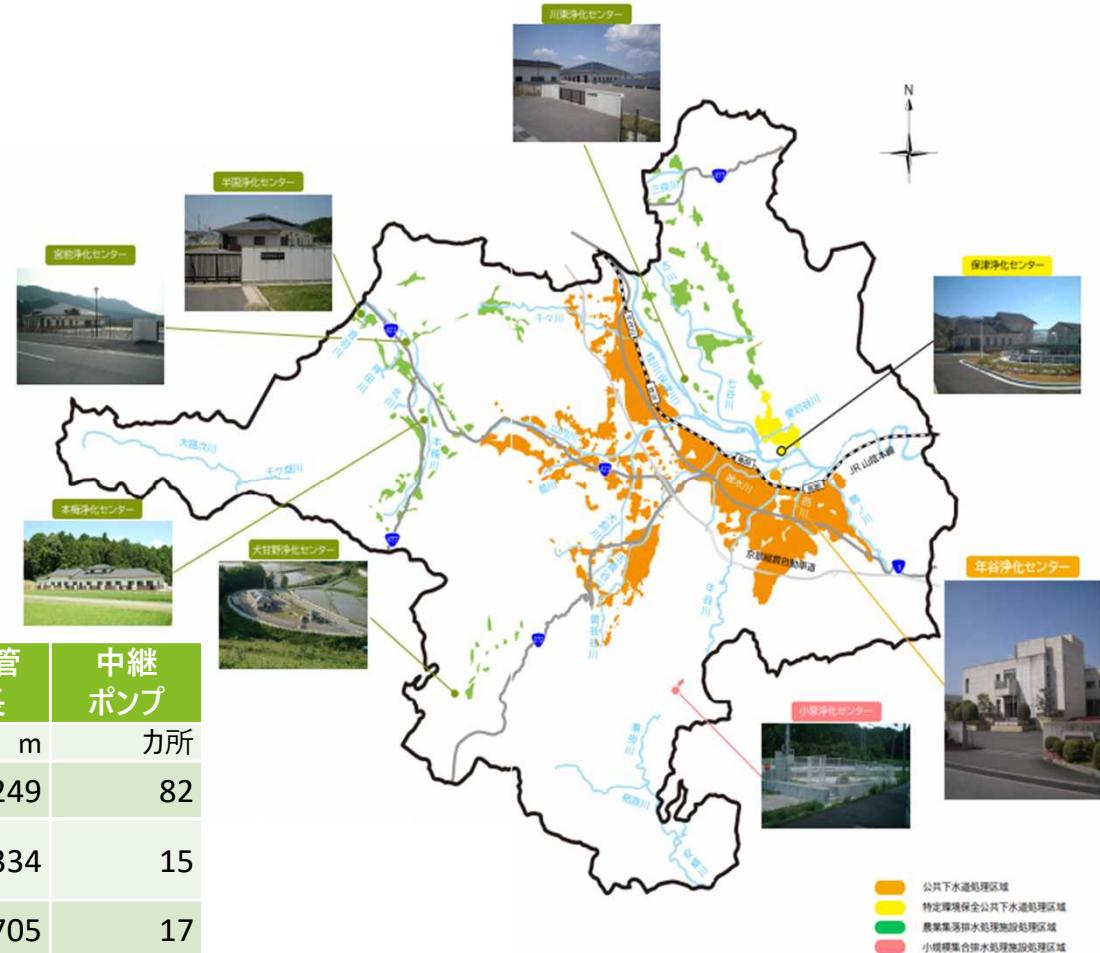
下水道事業の現況

(令和7年3月末現在)

事 項	内 容
行政区域内人口	85,900人
処理区域内人口	82,110人
人口普及率	95.6%
水洗化人口	79,434人
水洗化率	96.7%
年間汚水処理水量	9,806,659 m³
年間有収汚水量	8,456,188 m³
有収率	86.2%

下水道施設の概要

下水道の処理区域には、汚水の処理施設は
8カ所あります



下水道の種類	処理区名	処理能力 m³/日	処理区域 面積 ha	処理区域 内人口 人	汚水管 延長 m	中継 ポンプ 力所
公共下水道	亀岡処理区	34,000	1,265	73,340	356,249	82
特定環境保全 公共下水道	保津地区	1,000	80	1,433	18,334	15
農業集落排水 処理施設	半国地区	275	25	461	10,705	17
	犬甘野地区	151	17	234	10,520	17
	宮前地区	645	65	1,235	22,602	46
	本梅地区	748	85	1,302	26,584	18
	川東地区	1,644	209	4,057	66,801	47
小規模集合排水 処理施設	小泉地区	24	6	48	1,829	7
計		38,487	1,752	82,110	513,624	249

3 事業をめぐる現状分析

人口の動向

本市の人口は、減少傾向には変わりありませんが、推計値の減少ペースは緩やかになっています

亀岡市の人口推移および将来予測

ビジョン策定時



見直し



出典：国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所による平成30(2018)年推計値

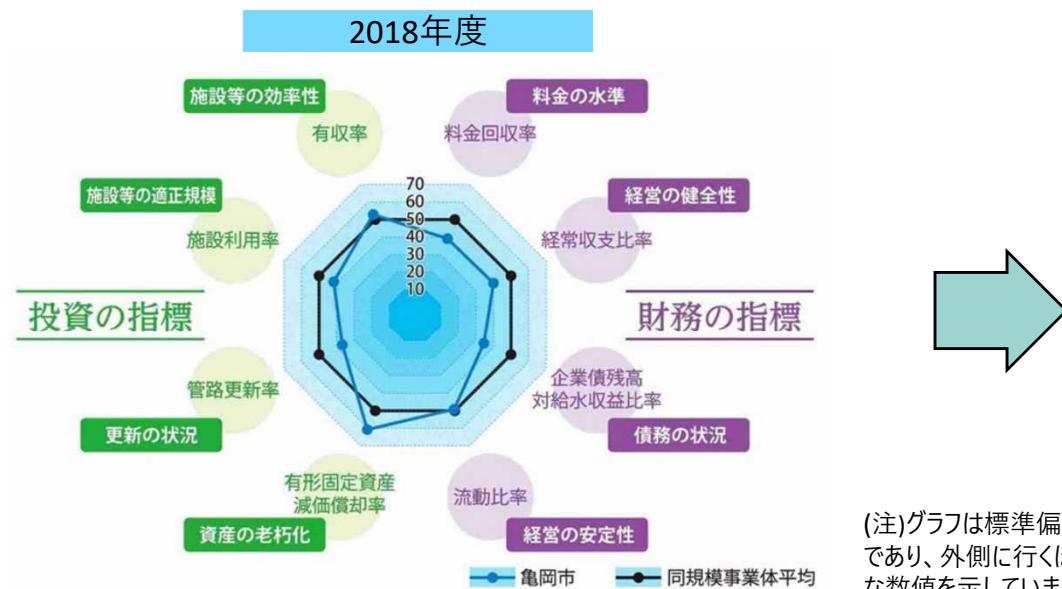
出典：国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所による令和5(2023)年推計値

水道事業の経営分析

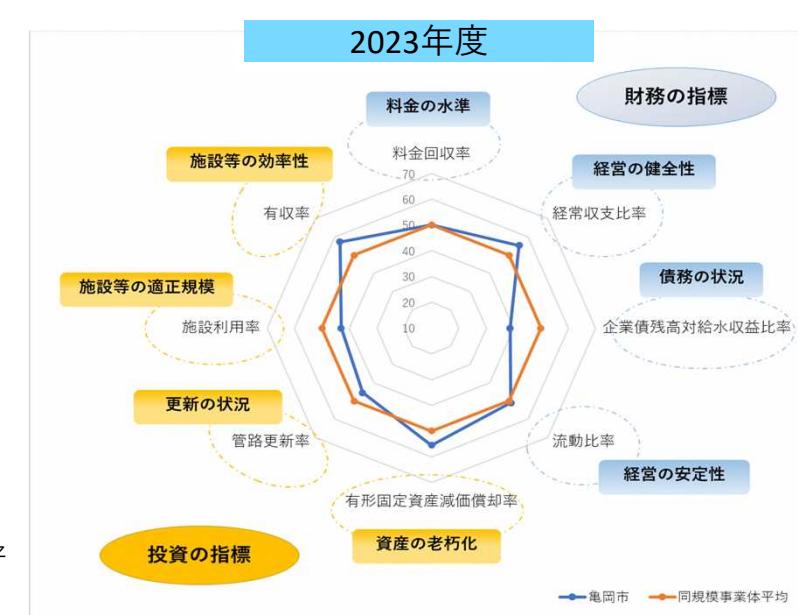
水道事業の財務および施設の状況について、8項目の指標により分析します

経営指標		指標の方向	2018 亀岡市	2023 亀岡市	2023 同規模平均	
財務の状況	料金回収率	% = 供給単価/給水原価×100	▲	90.3	99.0	98.9
	経常収支比率	% = 経常収益/経常費用×100	▲	104.2	113.8	109.1
	企業債残高対給水収益比率	% = 企業債現在高合計/給水収益×100	▼	639.7	551.8	304.0
	流動比率	% = 流動資産/流動負債×100	▲	411.5	377.2	344.9
施設の状況	有形固定資産減価償却率	% = 減価償却累計額/償却対象資産の帳簿価格×100	▼	42.1	48.8	51.8
	管路更新率	% = 当該年度に更新した管路延長/管路延長×100	▲	0.1	0.4	0.5
	施設利用率	% = 一日平均配水量/一日配水能力×100	▲	52.3	49.7	58.8
	有収率	% = 年間総有収水量/年間総配水量×100	▲	88.7	92.0	87.0

(注)
・指標の方向は、
▲大きいほうが望ましい
▼小さいほうが望ましい
ことを示しています。



(注)グラフは標準偏差方式であり、外側に行くほど良好な数値を示しています。



水道事業の全国の同規模事業体の平均と比較検討を行い、本市の事業の特徴や課題の整理を行いました

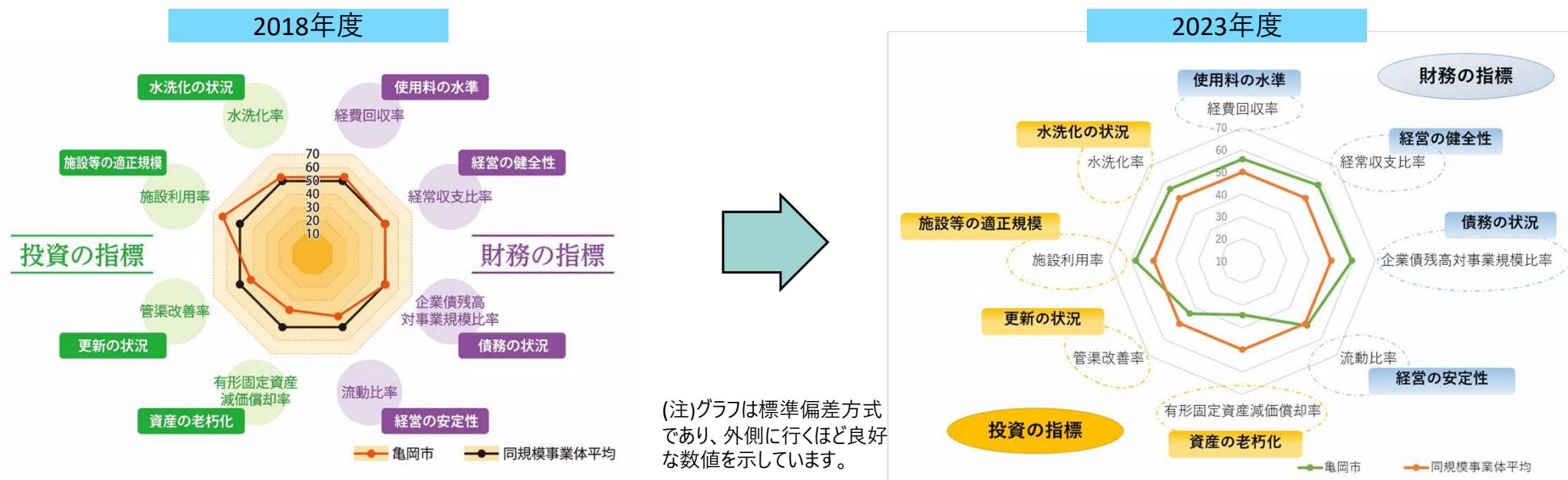
経営指標	指標の意味	コメント
財務の状況	料金回収率	料金で給水費用がどの程度回収できているかを示します。
	経常収支比率	給水収益や繰入金などで、維持管理費や支払利息などがどの程度賄えているかを示します。
	企業債残高対給水収益比率	企業債残高の規模や借入への依存度を示します。
	流動比率	1年間に支払うべき債務に対して支払い可能な現金などの状況を示します。
施設の状況	有形固定資産減価償却率	有形固定資産のうちの償却対象資産における減価償却の進み具合を示します。
	管路更新率	当該年度に更新した管路延長の割合を示します。
	施設利用率	施設の利用状況や適正規模を示します。
	有収率	施設の稼動が収益につながっているかを示します。

下水道事業の経営分析

公共下水道事業の財務および施設の状況について、8項目の指標により分析します

経営指標				指標の方向	2018 亀岡市	2023 亀岡市	2023 同規模平均
財務の状況	経費回収率	%	=下水道使用料収入 /汚水処理費(公費負担分を除く。)×100	▲	99.9	103.8	92.7
	経常収支比率	%	=経常収益/経常費用×100	▲	123.3	113.5	106.7
	企業債残高対事業規模比率	%	= (企業債現在高合計 - 一般会計負担額) /(営業収益 - 受託工事収益 - 雨水処理負担金)×100	▼	661.8	282.4	676.9
	流動比率	%	=流動資産/流動負債×100	▲	39.4	104.7	85.9
施設の状況	有形固定資産減価償却率	%	=減価償却累計額/償却対象資産の帳簿価格×100	▼	45.3	53.3	30.0
	管渠改善率	%	=改善管渠(更新・改良・維持)延長/管渠延長×100	▲	0.0	0.0	0.1
	施設利用率	%	=晴天時一日平均処理水量/晴天時現在処理能力×100	▲	65.3	68.8	60.1
	水洗化率	%	=現在水洗便所設置済人口/現在処理区域内人口×100	▲	95.9	96.9	94.4

(注)
・指標の方向は、
▲大きいほうが望ましい
▼小さいほうが望ましいことを示しています。



公共下水道事業の全国の同規模事業体の平均と比較検討を行い、本市の事業の特徴や課題の整理を行いました

	経営指標	指標の意味	コメント
財務の状況	経費回収率	使用料で回収すべき経費がどの程度回収できているかを示します。	類似団体の平均値を上回っており、前回ビジョンも上回っている状況となっています。
	経常収支比率	使用料収入や繰入金などで、維持管理費や支払利息などがどの程度賄えているかを示します。	類似団体の平均値を上回っているものの、前回ビジョンを下回っている状況となっています。
	企業債残高対事業規模比率	企業債残高の規模や借入への依存度を示します。	使用料収入に対する企業債残高の割合を示しており、類似団体の平均値よりも低い（良い）状況となっています。
	流動比率	1年間に支払うべき債務に対して支払い可能な現金などの状況を示します。	類似団体の平均値を上回っており、前回ビジョンを大きく上回っている状況となっています。
施設の状況	有形固定資産減価償却率	有形固定資産のうちの償却対象資産における減価償却の進み具合を示します。	施設の老朽化度合いを示す指標であり、これが高ければ施設や管路等が老朽化しており、今後の更新に伴い多く費用が必要になります。類似団体の平均値よりもかなり高く老朽化が進んでいる状況となっています。
	管渠改善率	当該年度に更新した管渠延長の割合を示します。	前回ビジョンと同様に「0」となっており、状況に変わりはありません。
	施設利用率	施設の利用状況や適正規模を示します。	前回ビジョンを上回っており、類似団体の平均値よりも上回っている状況です。
	水洗化率	処理区域内で実際に下水道を使用している人口の割合を示します。	前回ビジョンを上回っており、類似団体の平均値よりも大きく上回っている状況です。

4 上下水道ビジョンの取組目標の達成状況と評価

目指す将来像と基本目標

上下水道ビジョンでは、4つの目指す将来像のもとで、その実現に向けた今後の取り組みの基本となる9つの目標を次のとおり定めています

基本理念	4つの将来像	9つの基本目標	
安心と信頼を未来につなぐ亀岡の上下水道 ～おいしい水と循環のみち～	安全・快適	おいしい水道水を配り、下水を排除し処理することで、皆さんに安全と快適をお届けします。	1 安全でおいしい水の安定供給 2 下水道による快適な生活の実現
	強靭	災害の時にも役割を果たし続ける強靭な水道・下水道をつくります。	3 災害に強い強靭な施設の整備 4 危機管理体制の強化
	持続	効率のよい安定した経営を維持し、皆さまのライフスタイルに合った質の高いサービスを提供します。	5 お客さまサービスの充実 6 持続可能な経営基盤の強化 7 効率的な事業経営の推進
	環境	健全な水循環を維持するとともに、地球環境に配慮し、循環型社会の構築に貢献します。	8 健全な水循環と地球環境への配慮 9 循環型社会の構築への貢献

基本目標における各取組目標の進捗状況

取組事項に掲げる31個の取組目標の目標値について、目標達成度を検証します

項目番号 No.	ビジョン 該当 ページ	取組目標（目標値など）							
		基本目標	項目	望ましい 方向	R1 (2019) 実績	R6 (2024) 目標	R6 (2024) 実績	自己評価	R12 (2030) 目標
1	43	1 安全でおいしい水の安定供給	漏水率	↓	10.8%	10.0%	7.7%	達成	9.0%
2	43		管路更新率	↑	0.54%	0.73%	0.40%	未達成	0.95%
3	44		水源の水質事故件数	↓	0件	0件	0件	達成	0件
4	44		水道水をおいしいと思う人の割合	↑	64%	65.5%	69.5%	達成	67%
5	46		貯水槽水道の検査実施率	↑	62%	75%	75%	達成	100%
6	47		飲用水の確保の支援	—	補助の実施	補助の実施	補助の実施	達成	補助の実施
7	49	2 下水道による快適な生活の実現	水洗化率	↑	95.5%	96.4%	96.7%	達成	97.0%
8	49		下水道管渠調査延長	↑	1,677m	1,000m	1,580m	達成	1,000m
9	50		雨水排水施設の整備面積	↑	19.8ha	19.8ha	19.8ha	達成	43.0ha
10	50		雨水貯留槽の設置補助件数	↑	117基	340基	261基	未達成	617基
11	52	3 災害に強い強靭な施設の整備	基幹管路の耐震適合率	↑	54.3%	67.8%	57.3%	未達成	84.0%
12	52		浄水施設の耐震化率	↑	99.5%	99.5%	99.5%	達成	99.5%
13	52		配水池の耐震化率	↑	98.4%	98.7%	98.7%	達成	98.7%
14	53		年谷浄化センターの耐震化率	↑	61.1%	69.4%	63.9%	未達成	83.3%
15	55	4 危機管理体制の強化	災害時拠点施設の整備	—	庁舎の耐震性が不十分	3拠点施設の機能向上	3拠点施設の機能向上	達成	3拠点施設の機能向上
16	56		備蓄飲料水の実施率	↑	11%	20.5%	15.1%	未達成	30%

基本目標における各取組目標の進捗状況

取組事項に掲げる31個の取組目標の目標値について、目標達成度を検証します

項目番号 No.	ビジョン 該当 ページ	取組目標（目標値など）							
		基本目標	項目	望ましい 方向	R1 (2019)	R6 (2024) 目標	R6 (2024) 実績	自己評価	R12 (2030) 目標
					実績	目標			
17	58	5 お客さまサービスの充実	アンケート調査	—	2019年度に初めて実施	アンケート調査を実施	アンケート調査を実施	達成	5年ごとに実施
18	59		料金支払いにおけるキャッシュレスサービスの利用率	↑	80%	85%	84%	ほぼ達成	92%
19	61	6 持続可能な経営基盤の強化	水道事業の料金回収率	↑	97.4%	98.4%	98.0%	ほぼ達成	100%以上
20	61		下水道事業の経費回収率	↑	95.6%	97.4%	100.0%	達成	100%以上
21	61		水道事業の企業債残高	↓	70億円	66億円	61億円	達成	70億円以下
22	61		水道事業の資金保有額	↑	30億円	17億円	23億円	達成	10億円
23	61		下水道事業の資金保有額	↑	7億円	12億円	20億円	達成	15億円
24	62		職員の平均経験年数	↑	8年	9年	7.2年	未達成	10年
25	63		小規模下水道の統合地区数	↑	2地区	2地区	2地区	達成	6地区
26	69	7 効率的な事業経営の推進	民間連携のあり方の調査研究	—	—	—	—	—	前期中に報告のとりまとめ
27	70		共同化のあり方の調査研究	—	—	—	—	—	前期中に報告のとりまとめ
28	72	8 健全な水循環と地球環境への配慮	高度処理化実施率	↑	36.2%	51.3%	36.2%	未達成	85.0%
29	77	9 循環型社会の構築への貢献	汚泥の有効利用率	↑	48.4%	50.0%	45.4%	ほぼ達成	100%
30	77		消化ガス活用率	↑	37.5%	96.8%	96.5%	ほぼ達成	100%
31	79		資源循環の調査研究	—	—	—	—	—	前期中に報告のとりまとめ

5 財政計画の収支状況

水道事業の収支状況

前期計画期間（R3－R7（決算見込み））における財政計画と実績の比較

■収益的収支（税抜）

(単位:百万円)

	計画(①)	実績(②)	差引(②-①)	主な増減要因
事業収益	8,020	8,357	337	
給水収益	5,680	5,853	173	有収水量の増加
加入金	245	287	42	開発等に伴う給水申請の増加
長期前受金戻入	1,653	1,679	26	補償工事に伴う工事負担金分の増加
その他	442	538	96	支障物件の撤去工事に係る補償金の増加
事業費用	7,641	7,593	△ 48	
維持管理費	2,860	2,965	105	動力費の増加
減価償却費	4,268	4,077	△ 191	取得資産の減少
支払利息	493	487	△ 6	企業債発行額の減少
その他	20	64	44	資産の譲渡に伴う特別損失の皆増
当年度純損益	379	764	385	

■資本的収支（税込）

(単位:百万円)

	計画(①)	実績(②)	差引(②-①)	主な増減要因
資本的収入	3,255	3,357	102	
企業債	2,423	2,246	△ 177	建設改良費の減少
一般会計出資金	667	771	104	老朽管耐震化に係る出資制度の継続による増加
国・府補助金	51	50	△ 1	端数整理
その他	114	290	176	補償工事に伴う工事負担金の増加
資本的支出	7,677	7,708	31	
建設改良費	4,857	4,588	△ 269	老朽管耐震化工事の計画変更に伴う減少
企業債償還金	2,820	2,820	0	増減なし
その他	0	300	300	水道基金積立金の皆増
資本的収支差引額	▲ 4,422	▲ 4,351	71	

下水道事業の収支状況

前期計画期間（R3－R7（決算見込み））における財政計画と実績の比較

■収益的収支（税抜）

（単位:百万円）

	計画（①）	実績（②）	差引（②－①）	主な増減要因
事業収益	15,122	14,957	△ 165	
下水道使用料	8,030	8,157	127	有収水量の増加
一般会計補助金	3,534	3,146	△ 388	一般会計からの繰入対象の減少
長期前受金戻入	3,467	3,540	73	償却年数の精査による増加
その他	91	114	23	不用品売却収益の増加
事業費用	13,703	13,813	110	
維持管理費	4,635	4,645	10	修繕費の減少及び動力費の増加
減価償却費	7,692	7,762	70	償却年数の精査による増加
支払利息	1,341	1,352	11	企業債発行額の増加
その他	35	54	19	予備費分の増加
当年度純損益	1,419	1,144	△ 275	

■資本的収支（税込）

（単位:百万円）

	計画（①）	実績（②）	差引（②－①）	主な増減要因
資本的収入	6,608	6,323	△ 285	
企業債	3,049	3,196	147	資本費平準化債の増加
一般会計出資金	1,542	1,594	52	一般会計からの繰入対象の増加
国・府補助金	1,955	1,402	△ 553	建設改良費の減少
受益者負担金	37	106	69	特別使用に係る負担金の増加
その他	25	25	0	増減なし
資本的支出	11,756	11,296	△ 460	
建設改良費	4,795	3,932	△ 863	年谷浄化センター改築工事費等の減少
企業債償還金	6,961	6,963	2	端数整理
その他	0	401	401	下水道基金積立金の皆増
資本的収支差引額	▲ 5,148	▲ 4,973	175	